

# 令和6(2024)年度 下都賀地区教育相談連絡会第1回研修会を開催しました

日時：令和6(2024)年5月17日(金)

会場：下野市南河内公民館

参加者：・下都賀地区各市町教育相談機関の関係者  
・下都賀地区各市町教育支援センター担当者  
・下都賀地区各市町教育委員会教育相談関係担当者  
・県南健康福祉センター総務企画課・健康支援課担当者  
・各市保健福祉部・福祉事務所福祉部家庭相談員  
・下都賀地区小・中・義務教育学校教職員

## 1 研修内容について

○目的 (1) ヤングケアラーについて理解を深め、児童生徒理解の深化につなげる  
(2) 「教育相談」の充実に向けた組織的な取組(発達支持的生徒指導・課題未然防止教育)について理解を深め、所属機関での未然防止の取組につなげる機会とする

○内容 講話1「教育支援センターからの実践発表」  
下野市教育支援センター「スマイル教室」  
講話2「ヤングケアラーの理解と支援」  
講師 栃木県ケアラー支援推進協議会委員 仲田 海人 氏

## 2 本研修で学んだこと(参加者が記入した〈研修の振り返り〉より)

- 不登校への未然防止はもちろん、早期対応、粘り強い関わりが改善につながることを再確認できました。教育支援センターのような機関がもっと増えたり、学校と深くつながったりできるとよいと思いました。
- 教育支援センターでの実践では、子どもたちが自分のペースで好きなことを見つけるチャンスが豊富に用意されていることがすばらしいと思いました。
- 教育支援センターの実践を詳しく知ることができ、大変参考になりました。本校でも教育支援センターを利用している子どもがいるので、連携していきたいと思いました。
- 教育支援センターの実践について、常に無理なく本人のタイミングに合わせて、そして力がたまってきたタイミングでステップアップして本人の自信を高めている様子がとても参考になりました。
- 不登校でもヤングケアラーへの対応でも、早期対応、学校や福祉、医療などの支援の輪を広げ、強化することが重要であると思いました。
- 学校としての役割、養護教諭としての役割をしっかり把握し、外部機関との連携を密に取りながら支援していきたいと思いました。
- ヤングケアラーの支援に関しては、客観的な視点より主観的な視点(かわいそうと思ってほしくない)という部分が印象的でした。一人の教員や学校だけで関わろうとせず、SC や SSW、市町教委などと情報共有しながら多くの人の立場、機関からサポートしていくことが大切であると感じました。
- 大切な青春時代を、その子自身が自分らしく過ごせるように寄り添っていきたいと思いました。また、ヤングで終わらないヤングケアラーにならないためにも、早期に外部機関につないでいくことが大切だと思いました。

- 困っている子どもを発見することの大切さを感じました。「人数が多いから」、「忙しいから」という言い訳をせず、しっかり一人一人をよく見ていきたいと改めて思いました。
- 校内の支援体制はもちろん、どのような機関にどのような形でつないでいくのか、支援体制づくりの重要性を感じました。ヤングケアラーについても、もっと勉強していきたいと思いました。
- 困っている子へのサインに気付くために、それぞれの立場でできることをグループで協議できたことはとても勉強になりました。立場の異なる先生方とお話することで、自分の見方や考え方が広がり、とても充実した時間となりました。
- ヤングケアラーや虐待等、生活ノートや生徒の様子で担任がすぐに気付くことが多いです。学校では、SCやSSW、福祉部局につなげていますが、長期に渡り支えていくことが大切だと思いました。
- ヤングケアラーとは、自分が思っていたよりもとても広く深いものだと分かりました。もしかして・・・という生徒の顔が数名浮かびました。少しでも生徒のためになるよう、本日の内容を先生方に伝え、気になる生徒がいたら校内で共通理解し、寄り添っていけたらと思います。
- 2つの講話から、連携の大切さを改めて感じました。どこの部分にどこの機関が関わるか、きちんと見立てて介入する必要があると感じました。そのために、本人を含む全体像をしっかりと見立てる力を高めることが大切だと思いました。
- 子ども一人一人の関わる悩みは、大人が思っている以上に深く、誰かにSOSを感じてほしいと思っていることが分かりました。子どもが生きていく世界は、自由に選択できないことも多々あると思います。とても考えさせられる時間でした。
- 本校にも、ヤングケアラーと思われる子どもがいるので、その子の顔を思い浮かべながら仲田様の話を伺っていました。気付けてはいても、その先に一步踏み出すことへの難しさをずっと感じていましたが、本人の主観を最も大切に、安心感のある居場所が保健室に少しでもできるように意識して、見守り続けたいと思います。
- 仲田様の実体験をもとにした講話は、具体的でまた当事者にしか分からないような思いなどがたくさんあり、大変勉強になりました。やはり、子どもたちとの信頼関係を構築し、本人が弱音をこぼせるような状況を作っておくことが大切だと感じました。
- 未然防止のための教育相談の大切さを感じました。日頃の子どもたちの様子から、教育相談をするきっかけを見逃してはいけないと思いました。仲田様の講話にもあったように、何かあると身体的、精神的不調に表れるので、その時こそ話を聞くタイミングだと感じました。

